



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2022
No.594
2月号

◎教団創立五十周年教団方針
明主様の御元に
半世紀経過
継承 進歩向上

◎方針のみちしるべ
(一) みつめなおそう明主様の心
(二) つらぬきとおそう明主様の心
(三) 教団綱領を尊び実践する
(四) 信仰継承は家族と家庭円満から

明主様信仰再建への導き

明主様を求める信仰

信仰は信用なり

そもそも宗教信仰者は世間無数にあるが、真の信仰者はまことに寥寥たるものである。そこで、真の信仰者とは如何なるものであるかを書い

てみよう。
如何ほど立派な信仰者のつもりで自分分は思っている、主観だけでは何らの意味もない。どうしても客観的にみて、例えばあの人の言う事なら間違いない。あの人と交際をしていけば悪い事は決してない。あの人は立派な人である。というように、人から信用され

る事である。
それでは右のような信用を受けるにはどうすればいいかというと、これも訳はない。何よりも嘘を言わない事と自分の利益を後にして、人の利益を先にする事である。いわばあの人のお蔭で助かった。あの人に付き合っていれば損はない。実に親切な人だ。あの人と会うといつも気持ちがいい、というようであれば、何人といえども愛好し尊敬する事は請合

いである。自分自身を考えてみれば直ぐ判る。右のような人と知り合うとすれば、その人と親しく交際したくない、安心して何でも相談し、いっしょに肝胆相照らしあう仲になるのは当然である。今一つ言いたい事は、どんなによくしても



日之出観音 (ひのでかんのん)

揮毫年 昭和六年

もじきに尻からばれるような嘘をつく。一度嘘をついたら最後、ほかの事はどんなに良くてもいっぺんに信用は剥げてしまう。全く愚の骨頂である。どんなに一生懸命に働き、苦心努力をしても一向に運がよくなる人があるが、その原因を探れば必ず嘘をついて信用をなくすため、全く信用は財産である。
以上は人間に対しての話であるが、今一歩進んで神様に信用されるといふ事、これが最も尊いのである。神様から信用されれば、何事もうまくゆき歡喜に浸る生活となり得るからである。

光守の思い

瀬戸内寂聴先生がお亡くなりになってから一カ月が経ちました。先生は超人で今まで幾度となく病気を乗り越え、ご自分でも「死にそうにない」と、よくおっしゃっていらしたそうです。

「生きたあかしとは」を、執筆なされた中に、「人は愛するため生まれ生きてきたのです。九十九歳、数えて百歳まで生きてきて、さすがに『死』を目の前にして、つくづく思うことはこの一事です。今夜死ぬかもしれない今になって、つくづく思うことは、長く生きてきて、それだけたくさんの人を愛し、愛されたという事実だけです。中には辛い愛も、くやしい愛もあつた筈なのに、それらはすべてかすんで忘れてしまつて、熱い甘い愛の想い出だけが、瑞々しくよみがえってきます。」と書かれておられます。

医学博士の有名な帯津良一先生は、以前週刊誌で、「どんなに年をとっても、人間は恋をしなさい、と申し上げたい。恋をすると



いうことは、身体全体が瑞々しく笑顔をやささないのです。」と書いておられ、私も小さな一つの枠の中で、九十歳を迎えさせて頂いた、ということをつくづくと考えさせられ、これではダメですねと自分にいいきかせました。私もも

っと中の広い、神経の太い大きな人間になりたいと、感化されたのでしよう。機械オチの私、書齋の机に向かつて朝から夜遅くまで原稿は手書き、これを処理してくれる人はさぞかし大変でしょうと、いつも「ゴメンナサイ」と手を合わせています。

そんな私にも、ひよんなことから、神がお与えくださったのかしう。お与えくださったのかしら？と、感じのよい私の心をくすぐる相手を？



立春を迎えて『おことば』

今日は、とにかく大いに意義があるのです。年の季節の変わり目と同じく、御神業の大切な区切り、節にあたっております。

明主様が、御神業の大切な御決意をなさる、神様の方からいうと重大な日なんです。

明主様は、立春について、自然界の変わり目だけではなく、「世の変わり目」とも仰り、一年の大切な節目であると仰せです。そして、毎年巡りくる立春ではあつても、その日を、御神業上の大切な節目としてお祝い下さり、心新たに喜びをもつてお迎えになったのでございます。

主神は、時の流れと共に、私達に常に新しい営みを用意して下さつており、私達を常に進化させ、成長させようとなさつておられるのでござ

います。明主様より、『大沼さん、君が東京をまとめなさい』と、大先達、大沼光彦大先生が賜り、続いて御神業に対し、「善い名

前」をあげよう。『神が成る。神成教会、これに関連して、光と音をとどろかす雷教会、自然現象のかかわり、雷とどうだ』とのこと。



御用始めを雪で迎えた東京本部

♪どんなに大先生は胸がおどったことでしょうか。

『神成』教会の名称と現東京本部、教団発祥の地。その意義を受け継がれた歴世会長大沼昌司先生、そして現在へと歩んでまいりました。

明主様の御心そのままに、『神成教会』として発足の光教団として



早や半世紀が経過しようとしております。

その間、霊的体的に、山あり谷あり茨の道を信徒の皆様と共にしつかりと手を携えて、喜びも悲しみも驚きも乗り越えてまいりましたことは、何よりの御守護とありがたく受け止めるものがございます。

原点、「みつめなおそう明主様の



心」「つらぬきとおそう明主様の心」を受け、明主様への純粹な信仰をつらぬくため、私達は今より後の、自身の信仰姿勢を自問自答し、

これまで以上に、禍福は糾える縄のごとし、紆余曲折の道、九十九折りの道が待ち受けていることとは思いますが、更なる魂の向上を図るべく努力に努力を重ね

てまいらねばならないと、私の力不足を痛感いたしました。

また、同時にもちろん「情」のみでは解決できるものではないと思っております。

「思いやり」の心、愛の心、暖かい心、感謝の心」とのお諭しを思い起こし、こちらにも忘れることなく、次代に受け継いでゆかねばならないと思うのでご

ざいます。



目まぐるしく移り変わった世の中、明主様の『神言霊』を中心に進歩を進めてまいりまして、今ここに大きな節目、創立五十年を迎え、改めて『明主様の心』を振り返り、『神言霊』を基に、よく言う「道邇しと雖も行かざれば至らず(どんなに近い道でも進まなければ着くことができない

い)」「善行は轍迹なし(本当の善い行いは人にあまり目立たないものである)」の精神をもつて日々を過ごすことが肝要かと思っております。

このような観点から、未だコロナの収束は先が見えず渾沌としてはおりませんが、弛まぬ努力の積み重ねを、「明主様の御

元)に半世紀経過

「継承進歩向上」の教団方針を胸に、信徒の皆様と

共に歩んでまいりたいと思うのでございます。





少人数での参拝となった明主様御聖誕百三十九年祭(光明殿)

去る令和三年十二月二十三日、須玉総本部における明主様の御聖誕百三十九年祭の折、御浄化療養中の光守様は、「ゆく年において、霊地での納めの御参拝ですの」と仰り、須玉総本部へお出ましになられました。
光明殿においての御参拝と、輝霊光吉宝殿での納めの納齋式も、しっかりとした足取りでお仕えされました。

光守様・令和三年
納めの御参拝

須玉神成郷お出まし



参拝者に優しく声をかけられました(納齋式)



お祝いにバースデーケーキが供えられた



『神歌』を奉唱される光守様(光明殿)



お元気なご挨拶でした(光明殿)



とてもお元気な立ち居振る舞いでした(納齋式)



『おことば』を述べられる光守様(納齋式)



納めの納齋式のもよう



長岡教会ではサツマイモ作りしました



記念品を頂いての笑顔は、滋賀教会のお子さんです

昨年11月の『こども祭』の写真をお届けします。
コロナ渦中につき、全国ほとんどの教会のお子さんとは代参となりました。
その中でも集まることのできた教会からの写真です。

「こども達の笑顔」をお届けします



満面の笑みでこたえた長野教会のお子さんたち



こちらは焼き芋でしょうか、長野教会の皆さんです



風船バレーで盛り上がる長岡教会の皆さんです